

# 第十七章

シルバー・バーチは語る



これは、パーチが霊界通信を開始するまでの永い苦闘について、みずから語ったものである。

はるか遠い昔のことだが、私はこう尋ねられた、お前は物質界に戻って、霊界通信を送る団体を地上に作る意思があるかどうかと。私は、他の霊魂も行ったことがあるように、その意思のあることを告げた。こうして私のこの仕事を与えられた。

私はこう教えられた、まず霊媒となる者を探し出すこと、そしてこの者と常に接触を保ちつつ、これから伝えようとする霊界通信がうまく通信できるよう、その者を育てていくようにと。そこで、私は我々の記録を調査して、この霊媒を発見した。

私は、この霊媒の受胎の時から、これを見守っていた。本人の霊魂が生命活動を始めるや——まだほんの微々たるものにすぎなかったが——私の感化を与えるようにし、以来ずっと今日までその接触は続いている。

私はこの霊魂と精神の養成に手を加えた。またその生活のすべてにわたり、一つ一つ経験を観察しては、密接な接触はどうしたら得られるかを学び、少年時代を通じて、その精神過程と肉体的習慣に私自身を順応させていった。私は、この霊媒の精神・霊魂・肉体のあらゆる点について学習した。

次に、本人の人生航路を、靈的真理を理解する方向に導いていかねばならなかった。まず沢山の宗教を勉強するように仕向けた。その結果、彼の精神はこれらに抵抗を示すようになり、ついにいわゆる無神論者となり始めた。さて、この無神論が本人の精神的開花に作用を及ぼすに至るや、いよいよ私が彼の口を通じて、靈界通信を伝える準備が整ったのである。

私はこの青年が交霊会に行くように仕向けた。こうして彼は第一回の交霊会に出席したのである。その席上で、私はこの青年を通じて最初の憑霊を行ったのだった。それは雑で平凡な交霊だったが、私の立場からは極めて重要なものだった。こうして私は、物質界での最初の通信を、靈媒の発声器官を使って行ったのである。以来、私は靈媒による通信法を学び、遂に今日の状況に達したのである。こうして大いに進歩した結果、いま私は靈媒の個性的なものを除去しながら、私の言いたいことは何でも通信できるようになっている。

次に、私の使命についてお話したい。靈界で私は次のように告げられた「そなたは物質界に行き、まず靈媒を発見したら、次に通信伝達の仕事に共感をもって助力してくれる人達を、靈媒の周囲に集めなさい」と。私はこれを求め、遂に皆さんを発見し、皆さんを糾合させたのである。

だが、私の直面した最大の問題は、二つの道のうちどちらを選ぶか、ということだった。即ち、一つは物質界を納得させられる靈魂不滅の証拠資料を提供する道——証拠資料といっても物的証

拠であつて、靈的証拠ではない、つまり地上界は靈的証拠はまだ理解できないから。もう一つの道は、教師として真理の教えを伝える道。私は難しい方、後者の道を選んだ。

私はこう言つた、長年月にわたるこの靈界で得た多様の経験をもつて、地上に戻り、人々に愛をもつて訴えようと。私は理性に向かつて訴えたい、思慮ある進歩した教養ある人達の判断に向かつて訴えたい。私は靈的教示を素朴な形で訴えたい。

私は理性に反するような事は何も言わないつもりだ。私は愛を表白したい、即ち怒りの感情をもつて他を批判することをせず、いつも愛をもつて訴えたい。また金言と実例と私の行為とをもつて、私が神の使徒であることを証ししたいと思つてゐる。

私は、匿名を用いるという重荷をみずからに課した。それは、私が有名人であること、その肩書・階級・名声をもつて人に訴えるという道をとらないために。唯、私の言動を通じてのみ、人々に私を判断してもらうために。いつか祝祭日に私が靈界へ行った時、諸靈は私をたたえ、多大の使命を果たしたと言つてくれた。うれし涙が滂沱と私の頬を伝つた。しかしまだ私の使命は終つたわけではない、なお残された使命は大きい。

他の諸靈の果たした業績のおかげで——今私達も同じ仕事にたずさわつてゐるのだが——物質界には昔に比して大きな光明が現われている、人類の幸福は増大し悲しみも涙も減少した。私達も、

いま部分的には勝利を獲得している。

私達は、人々が自己の高級自我を日常生活に發揮するようにとすすめてきた。また正義と真理から人々の目を塞いできた過去の因習や迷信を追放してきた。また、長年月にわたり地上を悩まし、その愚かさの故に理性を曇らしてきた教義や信条の牢獄から、人々を解放することに助力してきた。

私達はひたすら努力した——それはある程度成功したことだが——神はえこひいきせず、怒らず、懲罰を与えず、病氣を与えるものでなく、神とは愛と英知であることを、ひたすら教えようと求めてきた。私達はイエスを、偉大な模範的人物として示そうと努めてきた。こうして、多数の人が私達の教えにひそむ理性に目をとめるようになった。

今日に至るまで大事業が進展している、しかしなお未完の大事業が残っている。物質界には不要な戦争がある、もし人々が真理を知り、真理に従って生きるなら、もはや殺戮などは無くなるのである。神の恵みは無限であるのに、地上には飢餓がある。新鮮な空気を奪われ陽光に当たることもなく、生命線以下に圧迫された陋屋ろうおくが建ち並んでいる。欠乏と不幸と悲惨がある。

世には、切り捨てるべき迷信がある、なお心を痛める問題がある、なお絶滅すべき病氣がある。私達の仕事はまだ完成していない。私達はこれまでに果たした業績を見て奮いたち、そして祈る、

私達に力を与え給えと。皆さんの協力を得ていつそう大きな奉仕が果たせますようにと。

私は、単に私を派遣した諸霊の代弁者にすぎない。私は自分のために栄光も報酬も求めはしない。私は自己を誇張して皆さんに示そうなどとは夢にも思わない。私は真理伝達の仲継係であることに、喜びを感じている。もはや永い時代失われ、今や神の真理の極印を押されて地上に再登場した、この真理の伝達係であることに至極満足している。

私の役割は、通信をしゃべるメツセンジャーである。私は今日までこの霊媒と私の力に依じて、私に課せられた通信の仕事に忠実に果たすよう渾身の努力を払ってきた。私は唯奉仕したい、その一念だけである。もし私の通信を聞いて一人の人が平安を得るなら、永い懷疑の苦闘の後、真理の隠れ家を発見するなら、もしこの素朴な霊的真理の聖所の中に、人が心の安らぎを発見し奉仕の心を起こしてくれるなら、私はおそらく神の御業のいくばくかを果たし得たということができよう。